

菌叢の転換

<菌叢コントロール>

株式会社 メイカム

1) 腐敗と浄化

水が腐る。水を浄化する。全く正反対ですが、どちらも微生物の活動によるものです。腐敗は主に嫌気性菌が有機酸やメタンなど（悪臭）を発生します。浄化は主に好気性菌が水や二酸化炭素を発生します（無臭）。働く微生物が異なるだけです。酵素水は浄化作用を持つ微生物とその産出する酵素の複合物です。

2) 微生物の世界での生存競争

微生物の世界でも熾烈な生存競争があります。同じ環境なら繁殖力（培養スピード）が強い方が残ります。または人為的に、残って欲しい微生物にあわせた環境を用意します。

3) 酵素水に含まれる微生物

当社では酵素水に含まれる微生物を数十万種の中から厳選しました。

(ア)培養スピードが速い。

(イ)発生する酵素の種類が多い。

(ウ)遺伝子操作を行っていない。

(エ)微生物に関して世界で最も厳しいアメリカの基準（労働安全衛生局）を採用。

(オ) I S O取得工場にて培養し、変異が認められない。

4) 菌叢の転換（排水系も安全に）

厨房や食品工場には様々な菌が菌叢を形成しています。本来なら食品のみならず、排水系も無菌であることが望ましいのですが、現実的には困難です。

特に清掃の難しい機器の下や裏、グレーチングの内側などは清掃が行き届きません。そのため排水系には食中毒などの病原性をもつ菌も多く存在します。

酵素水を流すことで、酵素水の微生物がこれら食中毒菌の菌叢を安全性の高い菌叢に転換します。

床面の排水が撥ねるなどで食品に触れるような、万が一の場合もあり得ます。このような場合でも、病原性の菌が触れることは避けるべきです。より安全性の高い菌叢が排水系を支配することにより **more better** な状態とすることができます。

<付記>

食品や健康の分野では「体内細菌の調整」など、微生物との共存に目を向けています。

医学の分野でも、抗生物質の多用が微生物の耐性獲得を促進し、抗生物質の効かないスーパー耐性菌を生み出していることから、国によっては保険の対象から抗生物質をはずしています。

微生物との“選択と共生”が世界の流れになっています。